

報道各位

ARMOURED DREAMER

TETSUYA NOGUCHI

野口哲哉 鎧を着て見る夢



《floating man》2025年

2025年7月19日 [土] – 2026年1月12日 [月・祝]

彫刻の森美術館 本館ギャラリー

彫刻の森美術館では、現代の新しい創作表現を紹介するシリーズの第9回として、「野口哲哉 鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-」を開催します。

「鎧と人間」をテーマに文明社会や人間への好奇心を追求する現代美術作家、野口哲哉。

作品は一見古びて見えますが、すべて樹脂やアクリルといった現代的な素材で作られており、「リアリティー」「多様性」など作家のコンセプトが凝縮されています。まるで本物と見間違ふような肌質の彫刻は、近代日本美術にある芝居的な表情とは違い、アイロニーな印象で、見る人の想像力を刺激します。モチーフは鎧兜ですが、過去や現代、未来を生きる人間の姿を肯定的に捉えています。

野口は、アイコンである鎧兜を「生物の殻」として考え、「殻をまとった人間は決して別次元や芝居事の住人ではなく、時代や環境に対応しただけの姿」と語っています。

本展では、1969年の開館当初の姿をとどめる本館ギャラリーを会場に、新作を含めた立体や平面など約75点を展示します。自然とアートが調和する野外美術館に、野口の幅広い思考と精緻な作品が融合し、誰もが共感できる知的な空間を産み出します。

◆報道関係者お問い合わせ先◆

彫刻の森美術館

〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121 TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

「野口哲哉 鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-」広報担当:辻井・武藤 armoured_dreamer@hakone-oam.or.jp

— 鎧を着て見る夢 —

「鎧と人間」という要素を手掛かりに絵画や彫刻を作り、作る以上に色々な事を考えて、頭と手を動かす作業を僕はずっと続けてきました。

子供の頃から鎧兜に強い興味をもってきましたが、それと同時に、現代の、過去の、そして未来の人間に強い関心を持っています。僕は鎧兜と同じくらいに人間や世界の事が大好きなのです。だから、鎧の事を「武将を飾った装束」としてではなく、「人間が肉体を守るために作った過去のプロダクト品」だと思っています。

人間はとても柔軟な生き物なので、地球上のあらゆる場所や風土、国や法律に適合することができます。その中で考えもしなかったようなユニークな発明をしたり、時には驚くほど不思議な姿になったりします。それはとてもミステリアスで恐ろしく、僕の好奇心を刺激し続けてきました。プロダクトを着る事で姿が変わってしまった人間の、それでも変わらない本質が硬い殻の中には胎動しています。

人間が誰でも持っている虚しさや孤独、喜びや怒りといったシリアスな姿が、色と形と結びつきながら僕の行き先を照らしています。 展覧会では、僕が過去に作った様々な作品を展示しています。作品をご覧になってくれた皆さんが何かを感じ、叶う事なら、ユーモアよりも大切な事が伝われば、僕はとても幸せです。最後に、展示に関わってくださった皆さんに心からお礼を申しあげます。本当にありがとうございます。

野口哲哉



主な略歴・展覧会歴

野口哲哉 Tetsuya Noguchi



- 1980年 香川県生まれ
- 2003年 広島市立大学 芸術学部 油絵科 卒業
- 2005年 広島市立大学 大学院 修了
- 2016年 平成27年度香川県文化芸術新人賞受賞

武具や甲冑、それらを纏った人間をモチーフに、リアリズムの視点から制作活動が続ける。

主な個展に「野口哲哉展－野口哲哉の武者分類図鑑－」(練馬区立美術館、アサヒビール大山崎山荘美術館/2014年)、「中世より愛をこめて」(ポーラミュージアムアネックス/2018年)、「鎧ノ中デ－ 富山編 -」(森記念秋水美術館/2019年)、「This is not a Samurai」(高松市美術館、群馬県立館林美術館、刈谷市美術館、山口県立美術館/2021年)、「野口哲哉展－armored space-」(銀座鳶屋書店 GINZA ATRIUM/2022年)。主なグループ展に「ART in LIFE, LIFE and BEAUTY」(サントリー美術館、2020年)、「シン・ジャパニーズ・ペインティング 革新の日本画」(ポーラ美術館/2023年)など多数。

Museum in Museum

本館ギャラリーの特性に合わせて作品を展示。ストーリーを感じながら、各展示室を回遊する展示体験は、野外彫刻展示用の空間をも取り込んで、作品の新たな鑑賞方法を提案します。

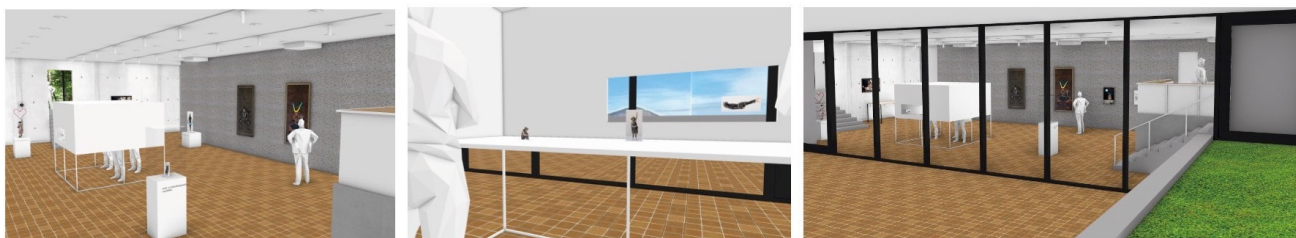


=本展の見どころ=

- 新作を含む初期からの代表作など約75点を公開します。
- 野口哲哉の3年ぶりの大型個展となります。
- 1969年の開館当初の姿をとどめる「彫刻の森美術館 本館ギャラリー」の特性を生かした展示です。
- 本展のための新作を公開します。また秋頃に新しい作品も展示予定です。

・展示室 1

野口哲哉展のイントロダクションです。浮遊感のある、あるいはコンセプチャルな作品群と美術館の野外展示風景とを関係付けるような配置と構成が広がります。



(展示イメージ)

・展示室2

美術館の外に広がる森と連動するような段違いの展示台に様々なポーズの立体作品が配置され、壁には種々の画風の平面作品が並びます。



(展示イメージ)

・展示室3

美術館展示室に野口作品がコンポジション配置され、圧倒的物量を持つ作品群で静謐な美術空間を作り上げます。



(展示イメージ)

作品制作風景



野口哲哉アトリエより(画像提供:野口哲哉)

主な出品作品（広報用貸出画像）



1.《floating man》2025年
ミクストメディア
Photo：長橋 睦



2.《floating man》2025年
ミクストメディア
Photo：長橋 睦



3.《Clumsy heart》2018年
ミクストメディア
Photo：GYOKUEI



4.《Talking Head》2010年
ミクストメディア
Photo：富森浩幸



5.《Watcher》2025年
ミクストメディア
Photo：長橋 睦



6.《RING AND MAN》2024年
ミクストメディア
Photo：長橋 睦



7.《small sleep》2019年
ミクストメディア
Photo：富森浩幸



8.《GUNMAN》2025年
ミクストメディア
Photo：長橋 睦



9.《甲冑武人自転車乗車出陣影》2008年
紙にアクリル彩色
Photo：竹下 聡



10.《ダンスマン》2022年
紙にアクリル彩色
Photo：竹下 聡

広報用貸出画像【利用規約・画像使用に際しての注意】

- 1点のみ掲載の場合は、本展のための新作となる1.または2.《floating man》をご使用ください。
(横位置と縦位置の2パターンをご用意しております)
- ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、作品名、クレジットを必ず掲載してください。
(作品名・クレジットは、各画像の下に記載のものを掲載ください)
- 画像のトリミングなどはお控え下さい。画像に文字や他のイメージを重ねることはできません。
- 展覧会基本情報と作品画像使用の確認のため、可能な範囲で原稿を本展広報担当までお送りくださるようお願いいたします。
- 本展広報目的でのご使用に限ります。展覧会終了後の利用、画像の二次利用はできません。
- 本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は本展広報担当にご連絡ください。
- 掲載紙誌・同録DVD等は広報担当に1部ご惠贈願います。WEB媒体の場合は掲載URLをお知らせください。
- ご不明な点は、本展広報担当までお問い合わせください。

■【オンラインプレスリリース・広報用データ ダウンロードシステム】 をご利用いただけます。

<https://www.artpr.jp/hakone-oam/armoured-dreamer2025>

オンラインプレスリリース・広報用データ
ダウンロードシステム QRコード



■プレゼント用チケット(5組10名様)をご用意します。

- ・ご希望の方は、オンラインプレスリリース・広報用データ ダウンロードシステムよりお申し込みください。
- ・招待ハガキでの提供となります。
(1枚で2名まで会期中入館可能・常設展示もご覧いただけます)
- ・招待チケットは、6月1日頃より掲載確認後順次発送します。

広報用テキスト

下記テキストを参考に、紹介文を作成ください。

(約300字)

彫刻の森美術館では、現代の新しい創作表現を紹介するシリーズの第9回として、「野口哲哉 鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-」を開催する。「鎧と人間」をテーマに文明社会や人間への好奇心を追求する現代美術作家、野口哲哉。一見古びて見える作品は、すべて樹脂やアクリルといった現代的な素材で作られており、「リアリティー」「多様性」など作家のコンセプトが凝縮されている。本展は、1969年の開館当初の姿をとどめる本館ギャラリーを会場に、新作を含めた立体や平面など約75点を展示する。自然とアートが調和する野外美術館に、野口の幅広い思考と精緻な作品が融合する空間が楽しめる。

(約200字)

彫刻の森美術館では、「鎧と人間」をテーマに文明社会や人間への好奇心を追求する現代美術作家、野口哲哉の展覧会「野口哲哉 鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-」を開催。一見古びて見える作品は、すべて樹脂やアクリルといった現代的な素材で作られており、「リアリティー」「多様性」など作家のコンセプトが凝縮されている。開館当初の姿をとどめる本館ギャラリーを会場に、新作を含めた立体や平面など約75点を展示する。

(約120字)

「鎧と人間」をテーマに文明社会や人間への好奇心を追求する現代美術作家、野口哲哉の展覧会「野口哲哉 鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-」を開催。開館当初の姿をとどめる本館ギャラリーを会場に、新作を含めた立体や平面など約75点を展示。

開催概要

- 【展覧会名】 野口哲哉 鎧を着て見る夢 -ARMOURED DREAMER-
- 【アーティスト】 野口哲哉
- 【会 期】 2025年7月19日(土)～2026年1月12日(月・祝)
- 【会 場】 彫刻の森美術館 本館ギャラリー
- 【開館時間】 9:00～17:00(入館は閉館の30分前まで)
- 【料 金】 美術館入館料(詳細は、下記をご参照ください)
- 【休 館 日】 なし(年中無休)
- 【主 催】 公益財団法人彫刻の森芸術文化財団
- 【協 力】 GYOKUEI、ザ・ドキュンカンパニー、P.I.C.S.
- 【出品点数】 約75点
- 【美術館公式ホームページ】 <https://www.hakone-oam.or.jp>
- 【特設サイト】 https://www.hakone-oam.or.jp/specials/2025/armoued_dreamer/



関連イベント

[アーティスト・トーク]

- 7月19日(土) ①11:00～11:45 野口哲哉
②14:00～14:45 野口哲哉

詳細は、展覧会ウェブサイトやSNSでご確認ください。随時イベントの最新情報を更新していきます。

プレス会

2025年7月18日(金)13:00～彫刻の森美術館本館ギャラリーで実施します。
詳細は、プレスリリースVol.2(6月25日(水) 配信予定)にて発表します。

◆彫刻の森美術館について

四季折々の雄大な自然が楽しめる箱根。彫刻の森美術館は、その自然を生かして1969年に開館した、国内で初めての野外美術館です。緑豊かな屋外展示場に、近・現代を代表する彫刻家の名作約120点が常設展示されています。また、ピカソ館をはじめとする室内展示場や子どもたちが体験できる作品、天然温泉の足湯もあり、心豊かな憩いのひとときを過ごすことができます。

所在地 : 〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121

Tel : 0460-82-1161

Fax : 0460-82-1169

アクセス : 詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

電車 | 箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分

車 | 東名高速道路厚木IC-小田原厚木道路-西湘バイパス箱根ICより約25分

または東名高速道路御殿場ICより約5分

入館料 : 大人 2,000 円、大学・高校生 1,600 円、中学・小学生 800 円、未就学児 無料

※Webチケット割引、団体割引、障害者割引あり ※学生の方は証明書をご提示ください